

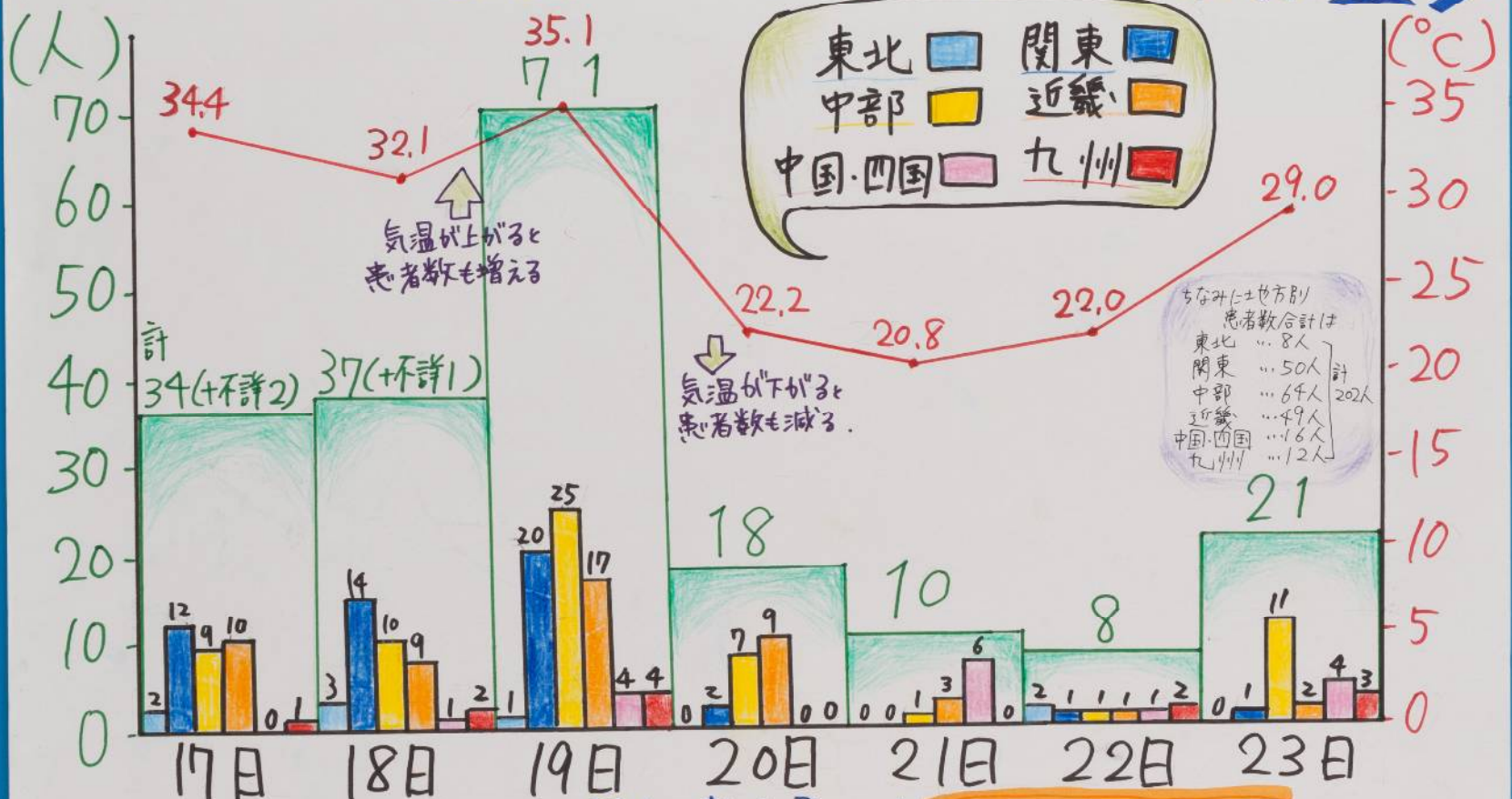
熱中症 最新情報!!

～梅雨明け頃の
7月17日～7月23日
(2012)のデータ～

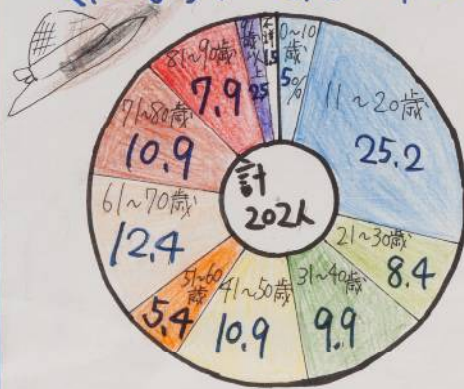
○暑い夏が続く中、熱中症の話題をよく
ニュースや新聞で見る。「地域」による患者数
や「気温」「患者年齢」と「とき」や「場所」についてまとめた。

資料：厚生労働省「即時的患者発生情報」

<地方別患者数と東京都最高気温>

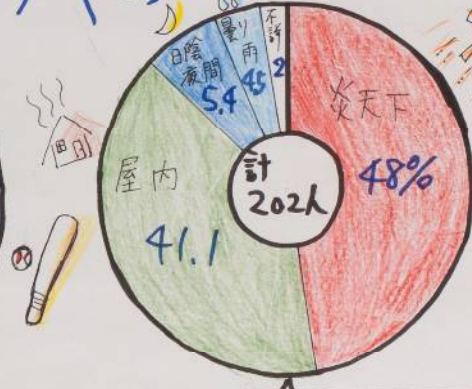


<7日間内に熱中症 になった患者の年齢>



体力もある11~20歳は割合が1番大きく、半分が11~20歳。次に多いのは61~70歳だ。体力がある人もない人も注意しなければならぬ!

<7日間内に熱中症に なった患者が居るとき、場所>



やはり直接日差しが当たる炎天下が割合が大きい。屋内も熱気がこもるから、多い。日陰や夜間でもなる可能性はゼロではない。

まとめてみて、関東、中部、近畿の患者数が、全体的に、多くなる時があることがわかる。また、気温が35℃を越えると熱中症になる人も多くなり、気温が下がると少なくなるのがわかった。年齢をまとめると、体力があるなしに関わらず、熱中症になることもわかり、油断はできないと感じた。節電も重要だが、熱中症にならないよう「屋内」は冷房器具も適度に使用しなければならぬ。炎天下での作業では水分や塩分をとり、足りることも必要だ。

